

**国際シンポジウム**  
**トランスナショナル化と国境/境界規制**  
**北米・EU・日本の比較**  
2018年10月27日(土)～28日(日)  
一橋大学・国立西キャンパス・インテリジェントホール  
日英同時通訳付

- 【主催】 一橋大学国際社会学プログラム  
    科研プロジェクト(基盤研究 A「移民・難民選別システムの重層的再編成」)
- 【共催】 一橋大学・大学院社会学研究科
- 【協賛】 Hitotsubashi University International Fellow Program Inbound  
    科学研究費(若手研究 B「国境管理における EU と NGO のパートナーシップ」、  
    基盤研究 B「社会的境界研究の構築と移民トランスナショナリズムへの応用」)

| 1 日目        |  | 10月27日(土)        |
|-------------|--|------------------|
| 10:30-10:45 | オープニング   | 小井土彰宏(一橋大学) 趣旨説明 |
| 10:45-12:00 | 【基調講演】「(不)道徳的政体の中での強制された移住と移民研究の公共的役割」<br>トマス・ファイスト(ビーレフェルト大学)<br>質疑   |                  |
| 12:00-13:30 | 昼食休憩   |                  |
| 13:30-15:45 | 【第1部】 北米: トランスナショナル空間と移民管理レジームの厳格化<br>* 司会: 南川文里(立命館大学)<br>1. ロバート・C・スミス(ニューヨーク市立大学)<br>「DACA[暫定的合法化措置]と法律的身分の長期的影響——地方環境差と連邦移民政策変動の横断/時系列分析」<br>2. ラファエル・アラルコン(メキシコ北部国境大学院大学)<br>「合衆国からのメキシコ移民の大量送還と強制された越境家族の出現」<br>3. 飯尾真貴子(一橋大学大学院)<br>「国境を超える米国移民管理レジームの社会的影響—オアハカとカリフォルニアのトランスナショナルな先住民コミュニティを事例として」<br>* 討論者: 小井土彰宏(一橋大学)   |                  |
| 16:00-18:30 | 【第2部】 EU: 共通外部国境政策と移民/難民選別<br>* 司会: 柄谷利恵子(関西大学)<br>1. エレーナ・サンチェス(バルセロナ国際問題研究所)<br>「要塞化された難民の緩衝地帯の構築——西バルカンルート事例」<br>2. パオロ・クッチッタ(アムステルダム自由大学)<br>「"人道空間"としての中地中海境界地帯——内包と排除の移民管理」<br>3. 錦田愛子(東京外国語大学)<br>「トランスナショナル家族の生存戦略—国境管理が EU 諸国への移民に与える影響—」<br>* 討論者: 伊藤るり(津田塾大学)   |                  |
| 2 日目        |  | 10月28日(日)        |
| 13:30-16:15 | 【第3部】 日本: 「移民政策」なき入管体制とトランスナショナル関係の多元的拡張<br>* 司会: 小井土彰宏(一橋大学)<br>1. 小井土彰宏(一橋大学)<br>「日本における“移民政策”の概況: 正統化、分断化、遅ればせながらの転換」<br>2. 惠羅さとみ(成蹊大学)<br>「首都再開発ブームと拡大する外国人建設労働者——東京 2020 とトランスナショナルな労働市場形成」<br>3. 眞住優助(金沢大学)<br>「日本における留学生の労働市場への編入—南・東南アジア出身学生は事実上の低技能労働者か、高技能労働者予備軍か、あるいはその両者か?」<br>4. 塩原良和(慶應義塾大学)<br>「出入国管理政策と社会統合政策の相互浸透?: 現代日本における「多文化共生」施策の展開」<br>* 討論者: トマス・ファイスト(ビーレフェルト大学)、ロバート・C・スミス(ニューヨーク市立大学) |                  |
| 16:15-16:30 | 休憩   |                  |
| 16:30-18:40 | 【第4部】 総括討論—地域間比較と日本の移民政策の今後<br>* 司会: 森千香子(一橋大学)<br>1. 地域からの発見と地域間対話<br>2. 転換する日本の政策の今後と提言<br>閉会のことば  |                  |